

川崎市×専修大学

企画・制作/神奈川新聞社営業局

新春座談会

学生の社会参画と地域振興

産官学連携の成果と地域活性化

川崎市では多摩区にキャンパスをおく大学と「多摩区・3大学連携協議会」を設立するなど、産官学の連携強化を図っている。これは大学が持つ知的資源や人材を活用して地元と連携しながら地域課題の解決に向けた実践的活動を展開していくことを目的としたもので、中でも専修大学は、06年度から川崎市と連携してキャリアデザインセンターのプログラム「課題解決型インターンシップ」を展開。08年には「川崎市との連携・協力に関する基本協定」を結んでいる。学生の社会参画が地域振興にどうつながるか、昨年のインターンシップに参加した学生と阿部孝夫川崎市市長による座談会を通じて、その成果を探っていく。(司会・統合編集局/加藤 聡)



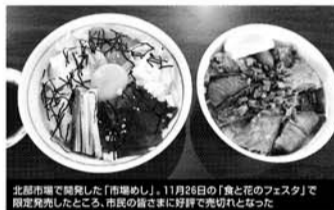
◆座談会出席者
川崎市 ● 阿部孝夫市長
専修大学 ● 井出光さん、越山麻未さん、中村優太さん、金井里紗さん

産官学連携で結ばれる川崎市と専修大学

川崎市は産官学連携事業を積極的に進めています。阿部市長(以下阿部) 地域社会は市民をはじめ企業や商店などで構成されていますが、大学は地域社会の将来を考えたときにとても大切な役割を果たすものと考えています。相互の人材育成、人材交流は全国的な流れでもあります。特に専修大学は先生方が川崎市の産業を研究したり、市の審議会や公的な機関のメンバーになっていただいていることなどから以前より深いつながりがあります。専修大学が06年からスタートした「課題解決型インターンシップ」(以下インターンシップ)に川崎市が連携しているのも、その一例です。阿部 市内の企業が積極的に参画できるように工業振興課などを窓口として協力しています。近年は商店街や行政など参加主体の幅も広がっています。

「市場めし」と「エコ製品」の商品開発に参加

学生の皆さんは昨年どのようなインターンシップに参加したのですか。金井 川崎中央卸売市場北部市場(以下北部市場)の活性化のため「市場めし」のメニューを開発するプロジェクトに半年間取り組みました。中村 私、私も金井さんと同様、大学でマーケティングを学んでいるので、商品開発と販売プロモーションに興味がありました。今回のインターンシップはそれを体験できるので参加しました。井出 私は一昨年から株式会社ユニオン産業(川崎中原区、以下ユニオン産業)の「ユニベレ」という、竹粉などを原料とした環境樹脂を用いた商品開発のプロジェクトに参加しています。越山 私は井出先輩たちの商品開発を引き継いで、さらに改良を加えるところからスタートしましたが、自分たちでも新しい製品を開発し、今はその販売に取り組んでいるところです。



北部市場で開発した「市場めし」。11月26日の「食と花のフェスタ」で限定販売したところ、市民の皆さまに好評で売切れとなった。

実体験を通して現場から

さまざまなことを学ぶ

インターンシップに参加して初めて気づくことや発見などもあったでしょうね。井出 ゼロからのスタートで、分からないことがたくさんありましたが、何事も取り組んでみることで成果が見え、また改良点も見えてくる。その繰り返しでプロジェクトが進んでいきました。何事も自ら行動することの大切さを学びました。金井 商品開発の大変さを実感しました。コスト面やお客さまの要望のクリアなどは市場の方々の意見の擦り合わせなどは予想以上にハードでした。しかし一方で充実感も味わうことができました。

産官学のコラボレーションが活性化の原動力

川崎市と専修大学の連携は「映像のまち」かわさき推進フォーラムや「しんゆり芸術のまちつくりフォーラム」など多彩ですが、市長は学生参加の事業に対してどのような期待をお持ちですか。阿部 何より若い人が参加すると活気づきます。昨年のインターンシップは食品やエコ製品など18のプロジェクトがあったのですが、学生の皆さんからいろいろな意見が出たのではないのでしょうか。学生の柔軟で斬新なアイデアというものを、上手にのみ取って、商品やサービスにしていくのは企業にとってもメリットです。学生の既成の価値観にとらわれない発想に、企業が売るためのさまざまなノウハウを融合させるわけです。その過程でお互いが学ぶことが生まれます。産官学連携には、常にそのコラボレーションがあると思います。今回は皆さんは、職業人としてやっていくには足りないことも見えたでしょうが、体験を通して面白かったこともあるでしょうし、やる気が出てきたのではないのでしょうか。

井出 私は将来、起業を目指しています。人を幸せにするために事業を興したい、という夢に向かってさまざまなことを学ばせてもらいました。この経験をこれから生かしたいと思います。越山 モノづくりをゼロから進め、パッケージまで自分たちで考えるという経験をさせてくれたユニオン産業さんにとても感謝しています。モノづくりは二人ではできないことも学びました。これから始ま



川崎市市長 阿部 孝夫氏

最後に市長から学生の皆さんへエールをお願いします。阿部 まずチャレンジすることが大切ですね。何事も最初からうまくできるはずはありません。分からないことがあれば聞いたり情報を集めたりして、そこから考えて解答を見つけていく。インターンシップでそういうことを経験したでしょうが、これは行政においても市長の仕事についても同じことが言えますね。もちろんデータだけで判断することとは危ういので、そこに経験やノウハウを組み合わせていく。皆さんは社会の扉の前に立ち、入り口を少し開けたところにいます。これから扉を開いて、学生時代の経験を将来の飛躍につなげてください。一回、ありがとうございました。本日はありがとうございました。

それぞれが得た財産をもとに 次のステージへ

中村 生身の人間相手に打ち合わせを重ね、本物の原料を使用して商品開発するといった、机上の勉強とは違う内容を学ぶことができました。商品開発を通して苦労したエピソードなどを紹介してもらえますか。中村 「市場めし」については味覚に関して個人差があり、全員が納得するものがなかなかできませんでした。また市場の方々はグラム単位で商品のコスト計算をするのですが、そこまで意識をしていなかったため、商品コストの調整が難しかったです。越山 私たちはあまりコスト意識を持っていなかったで、作りたいものを優先していくと、コスト面からストップがかかることが少なくありませんでした。



ユニオン産業で開発した抗菌プレート「i/レピース」。クップルなどに入れることで、0.157を99.9%カットできる。



1880

一人ひとりの個性が、ぶつかり合う。溶け合う。響き合う。専修らしさとは、あなたらしさです。

人が、専修をつくる。

